

富澤コラム 19

「議論」の勧め

理事長 富澤 暉

最近の偕行安保講座は若手講師の進出で大変面白くなった。当然、聴講者も若手が増え、遠慮のない質疑応答が飛び交い議論が深まる。それを聞いている年長の方々も討論に加わるようになり、楽しいことこの上もない。

昨年9月の特別講座は元北京駐在日大使館武官をつとめた宮寄泰樹氏であった。講師は「私が武官で北京に居たのは大分昔のことなので」と謙虚に断りつつ、習近平主席の中国について冷静に分析し、分かり易く説明してくれた。質疑に入ってフロアから「台湾を中国核心の第一とする中国政府がい つまでも台湾を武力解放しないのは何故か」との質問が出た。宮寄氏は「正直に言って中国政府の考えていることは分からない、しかし、台湾を武力攻撃すれば、米国が出てきて米中戦争になる可能性がある。それを避けたいということではないか」と答えた。

すると、8月の定期講座で講師を務め、ハーバード大で得た数々の新情報でフロアを沸かせた渡部悦和氏が「いや、それは違う。中国は、武力行使な

どしなくとも台湾はいずれ中国の一部になると信じており、その時を待っているのだ。米国の識者たちも多くそう考えている」と発言した。

その数日後にある講演会で台北中日経済文化代表処の次席くらいの方から「台湾事情」講話をきいた。宮寄・渡部両氏の議論に絡む同じ質問をしたら、なんと宮寄氏と全く同様の回答をされた。一寸ニュアンスの違ったところは米軍のことよりも「台湾軍は結構強いのだ」ということであった。

偕行社は10月の総会に防衛大学校長の國分良成先生をお招きして、ご専門の中国政治に関するお話を拝聴した。その時、先の議論の話を出して先生のご意見をお聞きして見た。「その二つは当然ですが、もう一つあるのです。習近平が固めつつあるとはいえ、中国内部がまだまとまらないということが最大の問題です。だから台湾問題を残しておくということでは国内分裂を防いでいるのです」とのお答えであった。

思わず「うーむ」と唸ってしまった。自分の思い込みや尊敬する偉い人の意見を信じ込み、それ以外の人の意見を聞こうとしない人には発展はない。色々な人の異見を聞き、それを自ら考え、さらに学ぶことが必要である。先ずは偕行社内での自由な議論を盛んにしていきたい。